

1 圏域の概要

(1) 水産業の概要

① 圏域内に位置する市町村および漁業協同組合の概要

・当圏域は、仙台市、名取市、亶理町、山元町の仙台湾地区を対象としており、この地区は、砂浜域がなだらかな曲線海岸を形成しており、豊富な水産資源を背景に水産業を基幹産業として発展してきた歴史がある。また、鳥の海、広浦、井戸浦、蒲生干潟などの河口周辺のラグーンが存在、貴重な汽水環境を形成しており、アサリ等の貝類、カレイ、カニ類等の稚仔魚の生育場、環境浄化機能など、生物生産（漁業）のみならず、親水域としても重要な地域となっている。東日本大震災（以下「震災」という。）の大津波でほとんどの漁業関連施設は甚大な被害を受けたが、漁業関係者等による早期復興に向けた取り組みにより、圏域内の陸揚量は平成 27 年に震災前の水準を超え、平成 30 年までは横ばいで推移してきたが、令和元年では震災前の約 8 割まで落ち込んでいる。

・当圏域には、宮城県漁業協同組合（以下、宮城県漁協）（塩釜総合支所の仙台支所、仙南支所）が所在しており、今後の合併や再編計画はないが、仙台支所は組合員数の減少により、支所統合の可能性もある。

② 主要漁業種類、主要魚種の生産量、資源量の状況（令和元年港勢）

・当圏域の主要漁業種類は、のり類養殖、小型底びき網、その他の刺網、小型定置網の海面漁業および海面養殖業を中心としており、これらは圏域全体の陸揚量の 9 割を占める（海面漁業全漁業種は圏域全体の陸揚量の 7 割）。海面養殖業はのり類養殖のみで、圏域全体の陸揚量の 3 割を占める。

・主要魚種は、ノリ類 550 t、その他の魚類 270 t、ヒラメ 210 t、カレイ類 200 t となっている。

・資源の減少対策として、各魚種の生産量調整を行っているが、特に、サケ、ヒラメ、ホシガレイ、マコガレイ、アカガイ、ウバガイ（ホッキガイ）を中心とした資源の管理と栽培漁業に取り組んでいる。

・七ヶ浜町の松ヶ浜漁港に所在する宮城県水産振興協会では、アワビの種苗生産、ヒラメの中間育成（種苗は岩手県栽培漁業協会）を行っており、当該圏域を含めた、県全体の栽培漁業の拠点となっている。

・また、宮城県水産技術総合センターで種苗生産されたアカガイを、仙台支所と仙南支所（閑上）の小型底びき網（貝桁網）漁業者が中間育成し放流する活動を長年続けている。

③ 水産物の流通・加工の状況

・圏域内には、地方卸売市場宮城県漁業協同組合仙南支所（閑上）魚市場（以下、仙南支所（閑上）魚市場）が閑上漁港（第 2 種漁港）に、地方卸売市場宮城県漁業協同組合仙南支所（亶理）魚市場（以下、仙南支所（亶理）魚市場）が荒浜漁港（第 2 種漁港）に、産地市場として所在している。圏域内の海面漁業による水産物は、仙南支所（閑上）魚市場と仙南支所（亶理）魚市場を経由する流通形態となっている。仙台支所は、仙台港船溜まりに陸揚げ後、閑上地区の仲卸業者へ相対取引もしくは仙台市中央卸売市場に陸送で出荷

している。

・当圏域の代表的な加工品は、笹かまぼこや赤貝の塩漬、シラス・小女子加工品、釜揚げしらす丼などのシラス料理、ホッキガイによるほっき飯やサケのはらこ飯などの地域ブランドが有名となっている。

④ 養殖業の状況

・当圏域の養殖漁業種類は荒浜漁港で行われているのり類養殖のみであり、令和元年の陸揚量は550tとなっている。

・海面養殖業は荒浜漁港のみでノリの養殖が行われており、荒浜漁港で陸揚げ・加工され塩釜圏域の宮城県漁協塩釜総合支所へ陸送される。

・ノリの種苗（カキ殻糸状体）はセキ浜（宮城県漁協セキ浜水産振興センター）で生産された種苗のほか、県外から購入した種苗を使用しており、松島湾において育苗し、種網を生産後、荒浜漁港の沖合に種網を展開し、本養殖が行われる。加工は漁港で行っている。ノリの冷凍冷蔵施設を荒浜漁港で有している。

⑤ 漁業経営体、漁業就業者（組合員等）の状況

・令和元年度港勢調査による漁業経営体数は57体、正組合員数は86人と、どちらも震災前の約3割と減少傾向となっている。

⑥ 水産業の発展のための取組

・名取市では、閑上漁港背後地に水産加工団地を整備し、前浜物を積極的に活用しているほか、他港からの原料も含め大規模な生産加工能力を備えている。

・また、新たな閑上の第3のブランドを目指し、シラス・小女子加工品を製造する加工業者が集積しているため、水揚量を増やすべく、シラス漁の漁具整備支援も実施している。

・亘理町では、水産業共同利用施設復興整備事業を活用した大型冷凍庫の整備による競争力強化や利益率向上への取り組みや、番屋再生事業を活用した水産業を中心としたコミュニティ創生への取り組みを行っている。

・山元町では、ホッキガイ漁の早期再開を目指し、東北大学やNPO団体から寄贈された従来の漁具に代わる新しい漁具（噴流式マンガン）を活用した試験操業を実施しており、平成30年より本格操業している。

・近年、閑上のアカガイ漁獲量減少や身色悪化等の問題が発生しており、宮城大学等と連携し、近赤外線や画像解析を活用してアカガイを開けずに身色等を判別する技術の確立に取り組んでいる。

・また、閑上漁港では、アカガイの種苗生産が漁港内で試験的に行われている他、令和元年から、試験的に沖合でのワカメ養殖を行っている。

・名取市の水産業共同利用施設復興整備事業として、閑上地区の震災復興と地域水産業の活性化を目的に、理研食品株式会社とパナソニック株式会社の共同研究による、ワカメの種苗生産・加工等を行う「ゆりあげファクトリー」で生産された種苗を使用した、漁業者、加工業者、名取市で構成する「閑上わかめ養殖プロジェクト」でのワカメ養殖の試験操業が実施されており、潮流の速い閑上沖で良質なワカメが生産出来る可能性が確認された。

⑦ 水産基盤整備に関する課題

・仙南支所（閑上）魚市場と仙南支所（亘理）魚市場では、漁業者・漁船隻数・資源の

減少により、今後陸揚量の増大は見込めないことから、両市場の統合等が必要となっている。

- ・当圏域の各漁港は、小型漁船の船揚場で台車が斜路のブロックの隙間や段差等で、漁船の船揚げに苦慮しており、危険な状況で作業を行っている。少子高齢化や漁業就業者数の減少が進んでいることから、省力化・軽労化・就労環境改善対策が必要となっている。
- ・震災により離職する漁業者や高齢化、重労働が敬遠されるなど、漁業に従事する人や漁船数は減少傾向にあり、漁港の施設や用地に余裕が生まれている。各漁港の生産力を十分発揮させ、安定した水揚げを行うために、それぞれの機能の分担・有効活用を図る必要がある。
- ・漁港施設の老朽化が進んでおり、維持管理や点検結果にかかる情報は今後も増加していくことから、漁港漁場施設の適切な管理とともに、機能保全の効率化が求められる。
- ・漁業生産の場（特にアサリ）である汽水域の再生や、新たな養殖魚種（近隣他県で実績のあるアオノリや、稚魚が圏域内で採捕可能なウナギ等）の展開などの可能性を検討していく必要がある。

⑧ 将来的な漁港機能の集約化

- ・集出荷機能の集約
仙南支所（閑上）魚市場と仙南支所（亶理）魚市場の統合による流通機能の集約化により漁業生産活動の効率化を図る。

(2) 圏域設定の考え方		
① 圏域タイプ	生産力向上型	設定理由；圏域内に流通拠点漁港の要件を満足するものがなく、いくつかの魚種で統一の資源管理に取り組んでいる。
② 圏域範囲	深沼～磯浜漁港の仙台湾地区 (仙台市、名取市、亶理町、山元町)	設定理由；仙台湾沿岸に面した当圏域は、外洋に面した砂浜海岸を有し、漁業形態が隣接と異なる。なお、範囲設定は前回計画通りで、漁業関係者ヒアリングで問題のないことを確認している。
③ 流通拠点漁港	該当なし	設定理由；
④ 生産拠点漁港		設定理由；
	磯浜	生産地として中核的な役割を担っている。
	閑上	一定の港勢を有し、生産地として中核的な役割を担っている。
	荒浜	一定の港勢を有し、生産地として中核的な役割を担っている。

⑤ 輸出拠点漁港	該当なし	設定理由；	
(令和元年)			
圏域の属地陸揚量(トン)	1,617	圏域の登録漁船隻数(隻)	107
圏域の総漁港数	4	圏域内での輸出取扱量(トン)	不明
圏域で水産物の水揚実績がある港湾数	1		
当該圏域を含む養殖生産拠点地域名	荒浜(ノリ) ※生産量500t以上		
対象魚種	ノリ		
魚種別生産量(トン)	荒浜:629t(ノリ)		
魚種別海面養殖業産出額(百万円)	荒浜:155百万円(ノリ)		

2 圏域における水産基盤整備の基本方針

<p>(1) 産地の生産力強化と輸出促進による水産業の成長産業化</p> <p>①流通拠点漁港等の生産・流通機能の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仙南支所(閑上)魚市場と仙南支所(亶理)魚市場の統合による流通機能の集約化により漁業生産活動の効率化を図る。 ・圏域内の産地市場を有する漁港では、高度衛生管理施設整備の計画はないが、小規模魚市場を閑上漁港と荒浜漁港に有しており、県内の流通拠点である主要5漁港は、魚市場などの流通機能や水産加工業が集積し、沖合・遠洋漁業の基地港であるとともに、周辺漁港からの水揚げが集積される最重要漁港に位置付けしていることから、主要5漁港と差別化を図り、小規模魚市場は、地方産地市場として、水揚げの中心である地元の沿岸小型漁船漁業により、仙台湾・金華山周辺での漁獲されるひらめ、かれい類、まあなご、すずき、まだこ・みずだこ等の水揚げが盛んであるため、漁船や魚市場の活魚関連設備を整備することにより、活魚を中心とした水揚げを増やす対策に取り組むと同時に、安定的な水揚げ量の確保や鮮度保持施設整備による付加価値向上対策を推進する。 ・鮮魚取扱を中心としている各漁港からの直接出荷となるため、鮮度保持のための殺菌冷海水装置の設置や、それぞれでの放射能検査、貝毒等の衛生検査を行っている。今後、生産拠点漁港でも、漁業関係者の意向を確認しつつ、引き続き、一層の鮮度保持や衛生管理対策に取り組む。 <p>②養殖生産拠点の形成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・圏域計画において「養殖生産拠点」を新たに設定する。 ・生産量拡大の目標値として、県の水産業の振興に関する基本的な計画(第Ⅲ期)(令和3年度～令和12年度)で設定された養殖品目ごとの目標値の、現状値からの増加割合より養殖生産拠点ごとの目標値を定め、今後新たな整備を検討しつつ目標達成を目指す。

区分	産出額	産出額目標値 [百万円]		生産量	生産量目標値 [t]		産出額増加割合		生産量増加割合	
	現状値	中間 (令和7年)	最終 (令和12年)	現状値	中間 (令和7年)	最終 (令和12年)	R07	R12	R07	R12
ノリ	155	175	192	629	670	711	1.13	1.24	1.07	1.13

(2) 海洋環境の変化や災害リスクへの対応力強化による持続可能な漁業生産の確保

①環境変化に適応した漁場生産力の強化

- ・藻場・干潟等の保全・創造の推進として、亘理町鳥の海では、作れい・着定基質の設置といったハード対策を実施したが、効果として顕著には確認できず、再生に向けた取り組みについて検討を実施する。
- ・研究機関との連携体制の構築として、宮城大学等と連携し、近赤外線や画像解析を活用してアカガイを開けずに身色等を判別する技術の確立に取り組んでいる。
- ・近年、閑上^{ノリ}のアカガイ漁獲量減少や身色悪化等の問題が発生しており、資源回復・増大を促進するための種苗生産施設の整備として、閑上赤貝組合による、漁業者自らが資源生産・管理・保護を行う簡便なアカガイの種苗生産システムを導入し、新たな漁業モデルの確立に取り組む。
- ・環境変化等に伴う漁獲対象魚種の多様化に対応した漁場整備として、現在2基の養殖施設で実施しているワカメ養殖の試験操業から、本格操業に向けて漁場等の整備を推進する。
- ・近年、阿武隈川河口域において、シジミが発生していることから、資源の持続的な利用を目指し、現在、宮城県漁協仙南支所（亘理）と資源・環境調査を実施している。

②災害リスクへの対応力強化

- ・大規模地震・津波の想定や沖波などの設計条件の点検・見直し結果を踏まえた漁港施設の耐震・耐津波・耐浪化、浸水対策として、防災拠点漁港である閑上漁港において、耐震強化岸壁を整備している。
- ・防災拠点漁港である閑上漁港において、水産業の早期再開のため、水産物の生産及び流通に関する事業継続計画（BCP）の策定・運用を推進する。
- ・ライフサイクルコストの低減を図る適切な機能保全計画の見直しとして、LCC平準化による最適化を行い、漁港または圏域・県全体のストック効果を発揮させるための計画的な取り組みを実施する。

(3) 「^{うみぎょう}海業」振興と多様な人材の活躍による漁村の魅力と所得の向上

①「^{うみぎょう}海業」による漁村の活性化

- ・漁港と地域資源を生かした増養殖や直販・交流など「海業」等の振興として、閑上漁港、荒浜漁港において、プレジャーボート係留区域の指定や、海洋レジャー施設を有しているなど、「海業」等の振興を図っている。閑上漁港背後の名取川堤防沿いは、親水性の高い空間として整備する国土交通省「かわまちづくり事業」に認定されている。交流施設である「かわまちてらす閑上」が平成31年に整備され、名取市の水産物を活用したレストランや直売施設を有している。そのほか、SUPや水防センター（震災復興伝承館）など、様々な施設や体験ができるようになっている。また、環境省みちのく潮風トレイル事業により整備された「名取トレイルセンター」では、地域情報提供施設としての役割の他、シーカヤック体験などを実施している。

- ・ 貞山運河の周辺を観光資源とした「ゆりあげ丸」が運航。
- ②地域の水産業を支える多様な人材の活躍
 - ・ 磯浜漁港で港内静穏度悪化対策を検討し、就労環境の改善を図る。

3 目標達成のための具体的な施策

(1) 産地の生産力強化と輸出促進による水産業の成長産業化					
①流通拠点漁港等の生産・流通機能の強化					
地区名	主要対策	事業名	漁港・港湾名	種別	流通拠点
検討中					
②養殖生産拠点の形成					
地区名	主要対策	事業名	漁港・漁場名	種別	流通拠点
検討中					
(2) 海洋環境の変化や災害リスクへの対応力強化による持続可能な漁業生産の確保					
①環境変化に適応した漁場生産力の強化					
地区名	主要対策	事業名			
閑上	環境変化※1	水産環境			
※1 ワカメ養殖の試験操業から、本格操業に向けての漁場等の整備					
②災害リスクへの対応力強化					
地区名	主要対策	事業名	漁港名	種別	流通拠点
閑上	早期再開※2	流通基盤	閑上	第2種	
磯浜	予防保全※3	機能保全	磯浜	第1種	
閑上	予防保全※3	機能保全	閑上	第2種	
荒浜	予防保全※3	機能保全	荒浜	第2種	
※2 水産物の生産及び流通に関する事業継続計画（BCP）の策定・運用					
※3 予防保全型の維持管理の実施					
(3) 「海業」振興と多様な人材の活躍による漁村の魅力と所得の向上					
①「海業」による漁村の活性化					
地区名	主要対策	事業名	漁港名	種別	流通拠点
検討中					
②地域の水産業を支える多様な人材の活躍					
地区名	主要対策	事業名	漁港名	種別	流通拠点
磯浜	就労環境※4	機能強化	磯浜	第1種	
※4 港内静穏度悪化対策を検討					

4 環境への配慮事項

- ・当圏域は、仙台湾海浜 県自然環境保全地域の指定地域にあり、阿武隈川、名取川などの河川から供給される土砂と海岸流によって形成された砂浜海岸が特徴である。
- ・圏域内では、砂浜植物と塩生植物が多く見られる地域であることから、事業着手に際して環境調査を行い、希少生物等が確認された場合には必要な対策を講じるものとする。

5 水産物流通圏域図

6 当該圏域を含む養殖生産拠点地域図

7 漁港ごとの役割や機能分担及び漁港間での連携の状況を示す資料

8 その他参考となる資料

海面漁業

宮城県 水産物流通圏域図 (荒浜圏域)

荒浜圏域 生産力向上型

流通拠点：なし

圏域総陸揚量：1,617t

圏域総陸揚金額：9.1億円

漁港4港、港湾1港

<養殖生産>

圏域養殖総生産量：554t

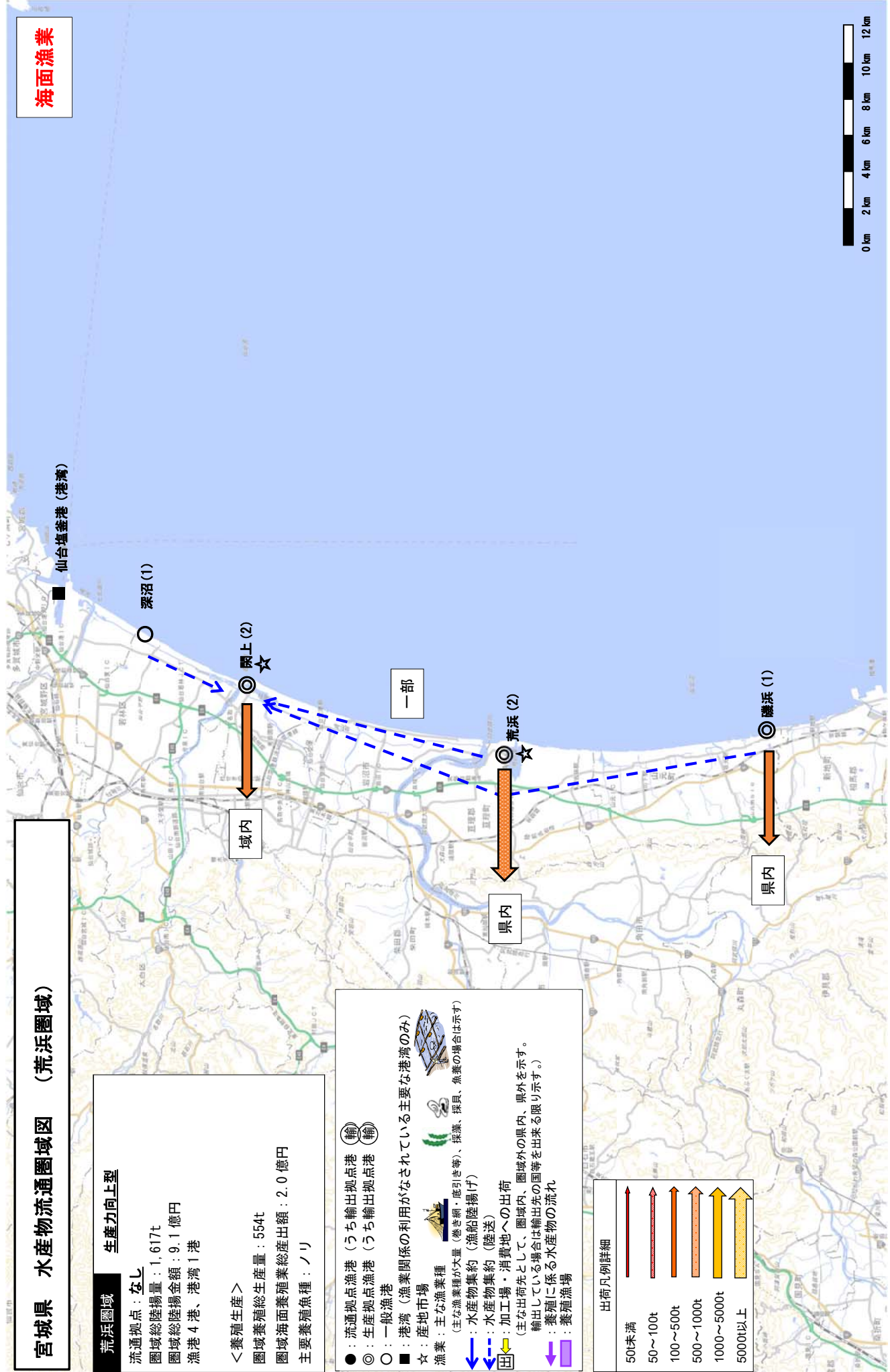
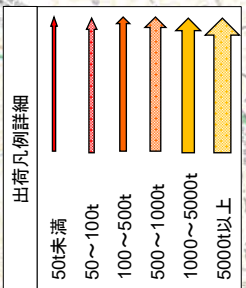
圏域海面養殖業総産出額：2.0億円

主要養殖魚種：ノリ

- ：流通拠点漁港 (うち輸出拠点港)
- ◎：生産拠点漁港 (うち輸出拠点港)
- ：一般漁港
- ：港湾 (漁業関係の利用がなされている主要な港湾のみ)
- ☆：産地市場

漁業：主な漁業種
 (主な漁業種が大量(巻き網、底引き等)、採漁、採貝、魚養の場合は示す)

- ←：水産物集約 (漁船陸揚げ)
- ←：水産物集約 (陸送)
- ←：加工場・消費地への出荷 (主な出荷先として、圏域内、圏域外の県内、県外を示す。輸出している場合は輸出先の国等を出来る限り示す。)
- ←：養殖に係る水産物の流れ
- ←：養殖漁場



養殖漁業

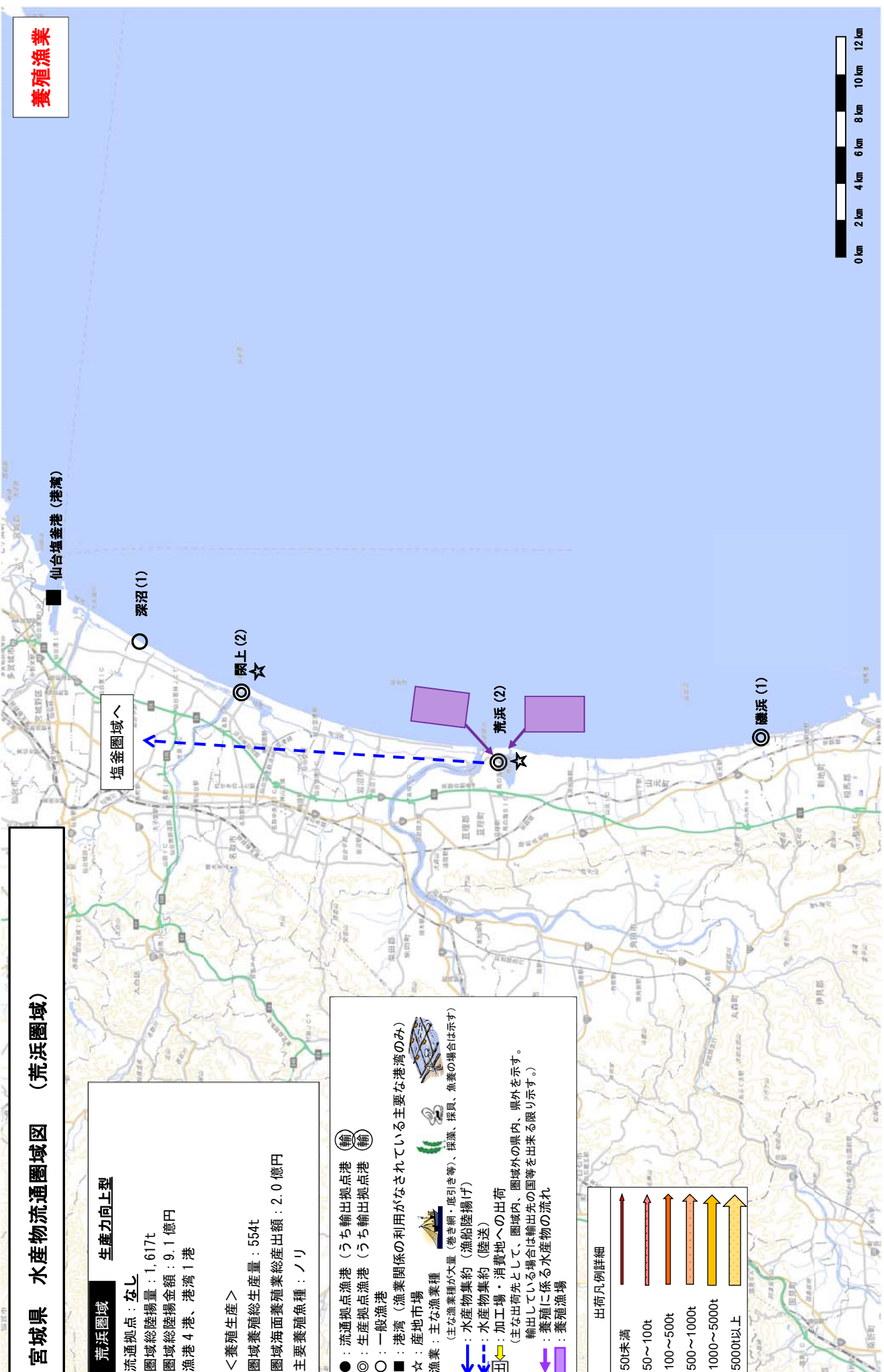
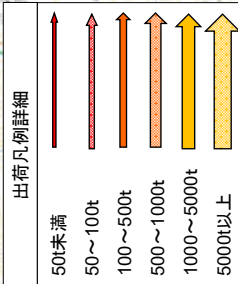
宮城県 水産物流通圏域図 (荒浜圏域)

荒浜圏域 生産力向上型

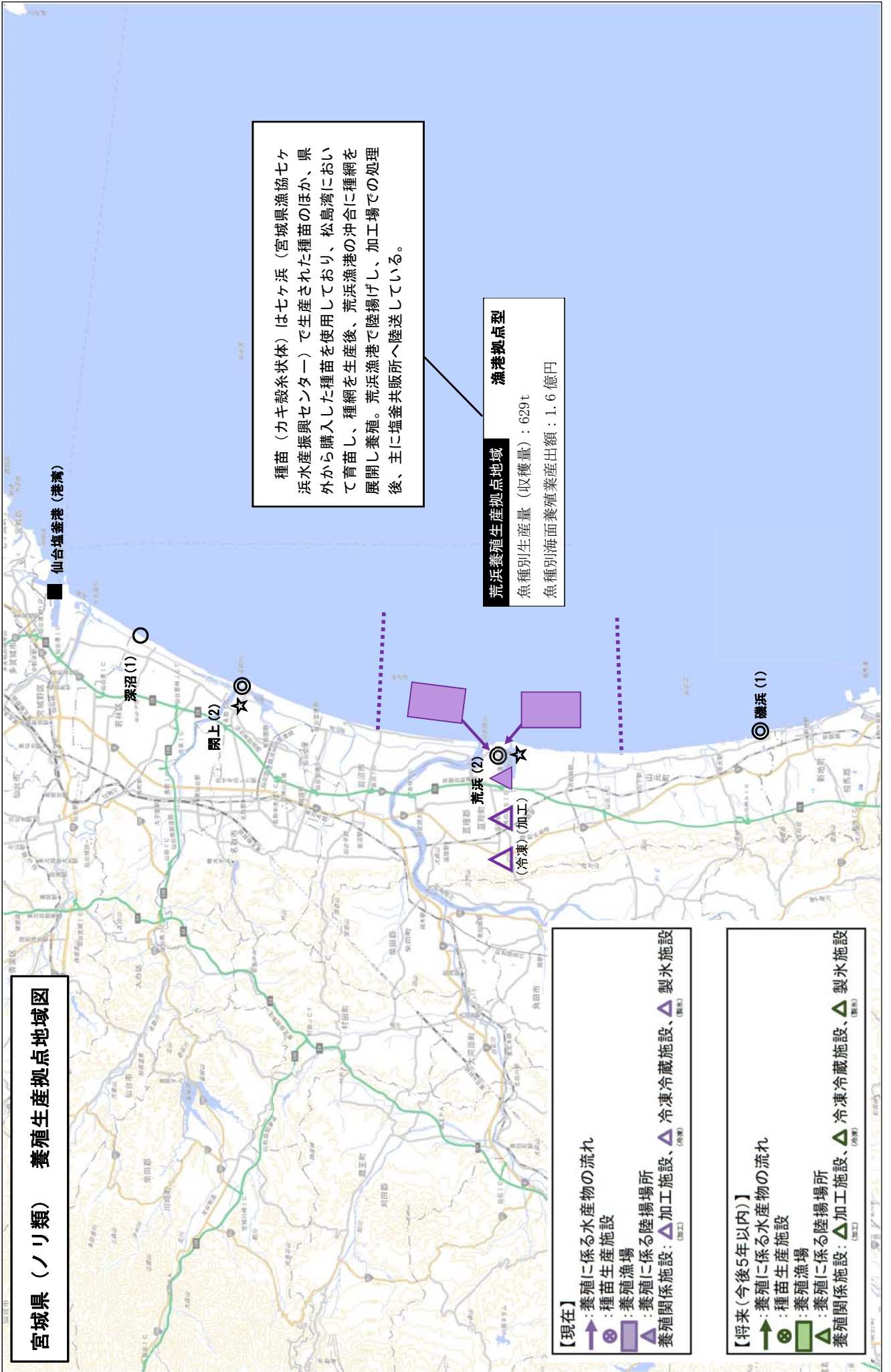
流通拠点：なし
 圏域総陸揚量：1,617t
 圏域総陸揚金額：9.1億円
 漁港4港、港湾1港

<養殖生産>
 圏域養殖総生産量：554t
 圏域海面養殖業総生産額：2.0億円
 主要養殖魚種：ノリ

- ：流通拠点漁港 (うち輸出拠点港)
- ◎：生産拠点漁港 (うち輸出拠点港)
- ：一般漁港
- ：港湾 (漁業関係の利用がなされている主要な港湾のみ)
- ☆：産地市場
- 漁業：主な漁業種 (主な漁業種が大量 (巻き網・底引き等)、採漁、採貝、魚獲の場合は示す)
- ：水産物集約 (漁船陸揚げ)
- ⇄：水産物集約 (陸送)
- 出：加工場・消費地への出荷 (主な出荷先として、圏域内、圏域外の県内、県外を示す。輸出している場合は輸出先の国等を出来る限り示す。)
- ⇄：養殖に係る水産物の流れ
- ⇄：養殖漁場



宮城県（ノリ類） 養殖生産拠点地域図



種苗（カキ殻系状態）は七ヶ浜（宮城県漁協七ヶ浜水産振興センター）で生産された種苗のほか、県外から購入した種苗を使用しており、松島湾において育苗し、種網を生産後、荒浜漁港の沖合に種網を展開し養殖。荒浜漁港で陸揚げし、加工場での処理後、主に塩釜共販所へ陸送している。

荒浜養殖生産拠点地域 **漁港拠点型**
 魚種別生産量（収穫量）：629t
 魚種別海面養殖業産出額：1.6億円

【現在】
 ↑：養殖に係る水産物の流れ
 ⊕：種苗生産施設
 ⊖：養殖漁場
 △：養殖に係る陸揚場所
 △：養殖関係施設：△加工施設、△冷凍冷蔵施設、△製氷施設

【将来（今後5年以内）】
 ↑：養殖に係る水産物の流れ
 ⊕：種苗生産施設
 ⊖：養殖漁場
 △：養殖に係る陸揚場所
 △：養殖関係施設：△加工施設、△冷凍冷蔵施設、△製氷施設

宮城県 集出荷機能連携図 (荒浜圏域)

海面漁業

荒浜圏域

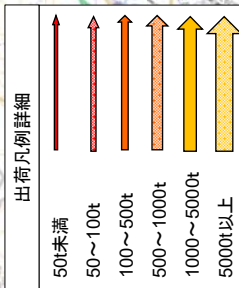
生産力向上型

圏域総陸揚量：1,617t

圏域総陸揚金額：9.1億円

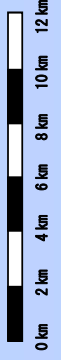
漁港：4, 港湾：1

- ：流通拠点漁港 (うち輸出拠点港)
- ：生産拠点漁港 (うち輸出拠点港)
- ：一般漁港
- ：産地市場
- ☆：港湾 (漁業関係の利用がなされている主要な港湾のみ)
- ☆：産地市場
- 漁業：主な漁業種 (主な漁業種が大量(巻き網・底引き等)、採藻、採貝、魚養の場合は示す)
- ←：水産物集約 (漁船陸揚げ)
- ←：水産物集約 (陸送)
- 田：加工場・消費地への出荷 (主な出荷先として、圏域内、圏域外の県内、県外を示す。輸出している場合は輸出先の国等を示す。)



範囲 A
 関上へ直接陸揚げまたは陸送して出荷のほか、石巻、福島、
 仙台中央卸売市場への陸送も見られる。

- ①集・出荷機能：現状の連携範囲 (青い点線)
 - ②準備機能：現状の連携範囲 (赤い点線)
 - ③増養殖・蓄養強化機能：現状の連携範囲 (緑色の点線)
 - ④海業振興機能：現状の連携範囲 (緑色の点線)
 - ⑤防災・減災、避難機能：現状の連携範囲 (紫色の点線)
- (※全機能共通) 将来的な連携範囲 (黄色い点線)
 :5年以内を目途に実施する連携範囲 (黄色い点線)
 :5年以内を目途に実施する中心漁港 (黄色い点線)
 :10年以内を目途に実施する連携範囲 (オレンジ色の点線)
 :10年以内を目途に実施する中心漁港 (オレンジ色の点線)



養殖漁業

宮城県 集出荷機能連携図 (荒浜圏域)

荒浜圏域 生産力向上型

圏域総陸揚量：1,617t
 圏域総陸揚金額：9.1億円
 漁港：4, 港湾：1

- ：流通拠点漁港 (うち輸出拠点港)
 - ◎：生産拠点漁港 (うち輸出拠点港)
 - ：一般漁港
 - ：港湾 (漁業関係の利用がなされている主要な港湾のみ)
 - ☆：産地市場
 - 漁業：主な漁業種 (主な漁業種が大量 (巻網・底引き等)、採藻、採貝、魚養の場合は示す)
 - ←：水産物集約 (漁船陸揚げ)
 - ：水産物集約 (陸送)
 - ⇄：加工場・消費地への出荷
 - 出
- (主な出荷先として、圏域内、圏域外の県内、県外を示す。輸出している場合は輸出先の国等を出来る限り示す。)

圏域 B
 塩釜 (塩釜圏域)
 へ陸送し出荷
 (ノリ)

- ①集・出荷機能
 現状の連携範囲
 現状の中心的な漁港
 - ②準備機能
 現状の連携範囲
 現状の機能を有する漁港
 - ③増養殖・蓄養強化機能
 現状の連携範囲
 現状の中心的な漁港
 - ④海産振興機能
 現状の連携範囲
 現状の中心的な漁港
 - ⑤防犯・減災・避難機能
 現状の連携範囲
 現状の中心的な漁港
- (※全機能共通) 将来的な連携範囲
 5年以内を目途に実施する連携範囲
 5年以内を目途に実施する中心的な漁港
 10年以内を目途に実施する連携範囲
 10年以内を目途に実施する中心的な漁港

